

③ テニスボール投げと自己評価

「テニスボール投げ」について、自己評価は「有能感」を示している。男女ともに、自己評価は「有能感」を示している。男女ともに、自己評価は「有能感」を示している。

「有能感」を示している。男女ともに、自己評価は「有能感」を示している。男女ともに、自己評価は「有能感」を示している。

④ 両足連続跳び越しと自己評価

両足連続跳び越しについては、「対人的自己効力感」との間、男女別の「有能感」を示している。男女ともに、自己評価は「有能感」を示している。

「有能感」を示している。男女ともに、自己評価は「有能感」を示している。男女ともに、自己評価は「有能感」を示している。

表 2. 運動種目の評定点と自己評価との相関

<自己評価>		<運動種目>					
		25m 走	立ち幅跳び	テニスボール投げ	両足連続跳び越し	体支持持続時間	
有能感	学習面の有能感	全体	-.03	-.04	-.23 [†]	.17	-.18
		男児	-.08	-.02	-.29 [†]	.11	-.20
		女児	.13	.13	-.01	.44**	-.10
	運動面の有能感	全体	.05	.06	-.15	.24 [†]	.10
		男児	.12	.14	-.33 [†]	-.02	-.07
		女児	-.16	.01	-.05	.40*	.23
対人的自己効力感	全体	.33*	.25*	.12	.39*	.17	
	男児	.34*	.06	.22	.19	.22	
	女児	.26	.39*	-.01	.58**	.07	

** p<.01, * p<.05, † p<.10

考 察

幼児期の運動能力は、基礎的な運動能力の発達に大きく影響している。本研究では、幼児期の運動能力の発達に大きく影響している。本研究では、幼児期の運動能力の発達に大きく影響している。

幼児期の運動能力は、基礎的な運動能力の発達に大きく影響している。本研究では、幼児期の運動能力の発達に大きく影響している。本研究では、幼児期の運動能力の発達に大きく影響している。

が「的能にえな段用ろ
度か較有た感られ達をだ
尺る比るた能とし発度る
定きてすつ有とももの尺あ
測でつ対あは」かもの
のがとにでてるのど感要
感返しに題のつきた子能必
能返児課もとでつ、有る
有り長動るに「かはたす
のぐ年運ね児くす後し討
面ん、い尋男なや今適検
動でどしを、係れ。にて
運「な易感め関らい階いう。

りの関な、瞬能しするれ長評い力で研発達く
よ別なの異には「動対対すさ年た己てメは断の関い
究個異そて特でる運にに連唆はた自れのと縦力のて
研るの、つ。児よの間と関示でい、さ係こ、能とし
本な価とよた女に「仲ことが究て力得関るは動成討
、と評こにれ、し性、うさと研し能獲果す後運形検う
に標己る別さ走越捷は舞高二本と動度因討今、のにろ
う指自す性唆25m跳うこ振価あし対にるらでたな評詳だ
よのは連は示25m跳うこ振価あし対にるらでたな評詳だ
の力目関方がは続伴いに評がかをであかまう己てあ
上能種と仕とで連を高能己性しみすもとムか行自いが
以動領域のこ児足性が有自能。の、とこズなをとつ要
運運領連る男両発力てる可た児め価たニき究達に必

引用文献

- 青柳領・松浦義行．1982．幼児の運動能力構造について．*体育学研究*，26，291-303．
- 原田碩三．1977．*幼児の体格と運動能力：その新しい評価法と指導*．北大路書房．
- Harter, S., & Pike, R. 1984. The pictorial scale of perceived competence and social acceptance for young children. *Child Development*, 55, 1969-1982.
- 文部科学省．2019．平成30年度体力・運動能力調査．森司朗・中本浩揮・桐谷昌代．2006．*運動の重要度と*

運動は、敏に上さ 価つ 25m 足能人連こも関、うらがでしにこのび た考で面て
運(青とびがうらる唆 評に 25m 両動対関のらには舞プと中連をよ捷つと遊たつと究動い
のるこ跳る伴ちめ示 己かの、運「とこち」とるにこの関を敏持間たっ取た研運つら、
一れの幅なをど高が 自る児びるもさ。ど性こ振価る価とこ通覚が使うプがで力連が(森
同さこち異力児を性 目連、幅おずのれ女敏高能己が己力「瞬こ通覚が使うプがで力連が(森
う類)。立は発女価能 目連、幅おずのれ女敏高能己が己力「瞬こ通覚が使うプがで力連が(森
い分ととて瞬・評可 種関とちにい」さ・うが有自性自効、高思いう自体にシつれ動のい
とに1982) 走し「児己る 運動にく立し、感示児伴力てる能。己てがをいの身的にこ運とて
」造、mとな男自あ 運面いの越は力が男を能しす可た自し」体とそや極ダと。の価れ
性構浦25m目うがもで、側て児びさ効と、性動対関くれ的と性身る、り積一こる児評さ
捷の松、種よ」て要。にの見女跳高己こら発運にに働さ人由捷のせきとでりるれ幼己告
敏力・ら動の性い重る次どて、続の自るか瞬る間とに唆対理敏分かであり中、すら、自報
う能柳か運こ捷おでれ のい走連力的すと「す仲コス示もたう自動がやのりりえはのは

2006; Harter & Pike, 1984
など)、本研究の結果から、高に重明
敏さは幼る役な感て面越が運関連
対すなか有つ運跳こ際感行結児た由
要らに「続る実能先の女れ理

- 親の運動へのかかわりが幼児の運動有能感の発達に与える影響. 鹿屋体育大学学術研究紀要, 34, 31-39.
- 森司朗・杉原隆・吉田伊津美、他. 2010. 2008年の全国調査からみた幼児の運動能力. 体育の科学, 60, 56-66.
- 中村栄太郎・松浦義行. 1979. 4～8歳の幼児・児童の基礎運動能力の発達に関する研究. 体育学研究, 24, 127-135.
- 桜井茂男・杉原一昭. 1985. 幼児の有能感と社会的受容感の測定. 教育心理学研究, 33, 237-242.
- 園田菜摘. 2016. 幼児用対人的自己効力感尺度の開発. 小児保健研究, 75, 100-106.
- 高井和夫. 2007. 子どもの調整力に関する研究動向について(第2報). 文教大学教育学部紀要, 41, 83-94.
- 田中千恵・佐久間春夫. 2002. 幼児の運動能力の発達に関する研究:年齢および性別との関連について. 身体教育医学研究, 3, 15-20.
- 吉田伊津美・森司朗・筒井清次郎、他. 2015. 保育者によって観察された基礎的運動パターンと幼児の運動能力との関係. 発育発達研究, 68, 1-9.

謝辞

本研究の調査にご協力いただいたきました子どもたち、幼稚園の関係者の皆様に深く感謝いたします。